

# Quru

桂剥きのように、もしくは千切りのようにカットする突板の製法は、有限な木材を最大限に活用できる技術のひとつと考えます。

内装材や家具の仕上材として使用される、約0.5ミリ厚の突板を、幼い頃に新聞紙で作った剣のようにくるくると巻いて成形する技法を用いて、パイプ状の部材にし、椅子を構成しました。

Quru は、「素材の採り方、扱い方」を見つめ直す時間をプロセスの始めに据える事で、今迄の椅子にはない軽さや強度、弾性といった特徴が自然に生まれてきた作品です。

100年先の時代にも、木と人との直接的な触れ合いから、新しい発見が生まれ続けてほしいという願いが、発想の始まりでした。

## 制作工程

- ①②100℃の熱湯で突板に癖を付け、8-9割乾燥させたところで巻き戻しながら接着剤を均等に塗る。
- ③隙間ができぬ様強く引きながら、巻いていく。
- その際、半回転毎にアイロンをかける事でより隙間のない部材になる。
- ④巻き終わり、テープ（又は強力ゴム）で圧迫し、成形する。



## 国産の突板へ

私達がよく目にしている突板の多くは、海外から輸入されたものであり、国産の突板は殆ど出回っていないのが現状です。国産の木材の現状について話す時、杉や檜等の間伐材は必ずと言っていい程話題になりますが、それらを家具に使用の上でも突板は非常に有効です。

表面加工や成形合板はもちろんですが、それとは異なる用途が注目されるのであれば、より突板の需要が増えるのではないかと感じています。



## 材料 / 杻目と柾目

試作品の木材は、曲げに強いブナ（柾目）に始まり、カエデ（ロータリーカット）を主材料として使用。また国産ではありませんが [0.80-0.90] と比重が高く油分の多いブビンガ（柾目）を比較対象として試作しました。



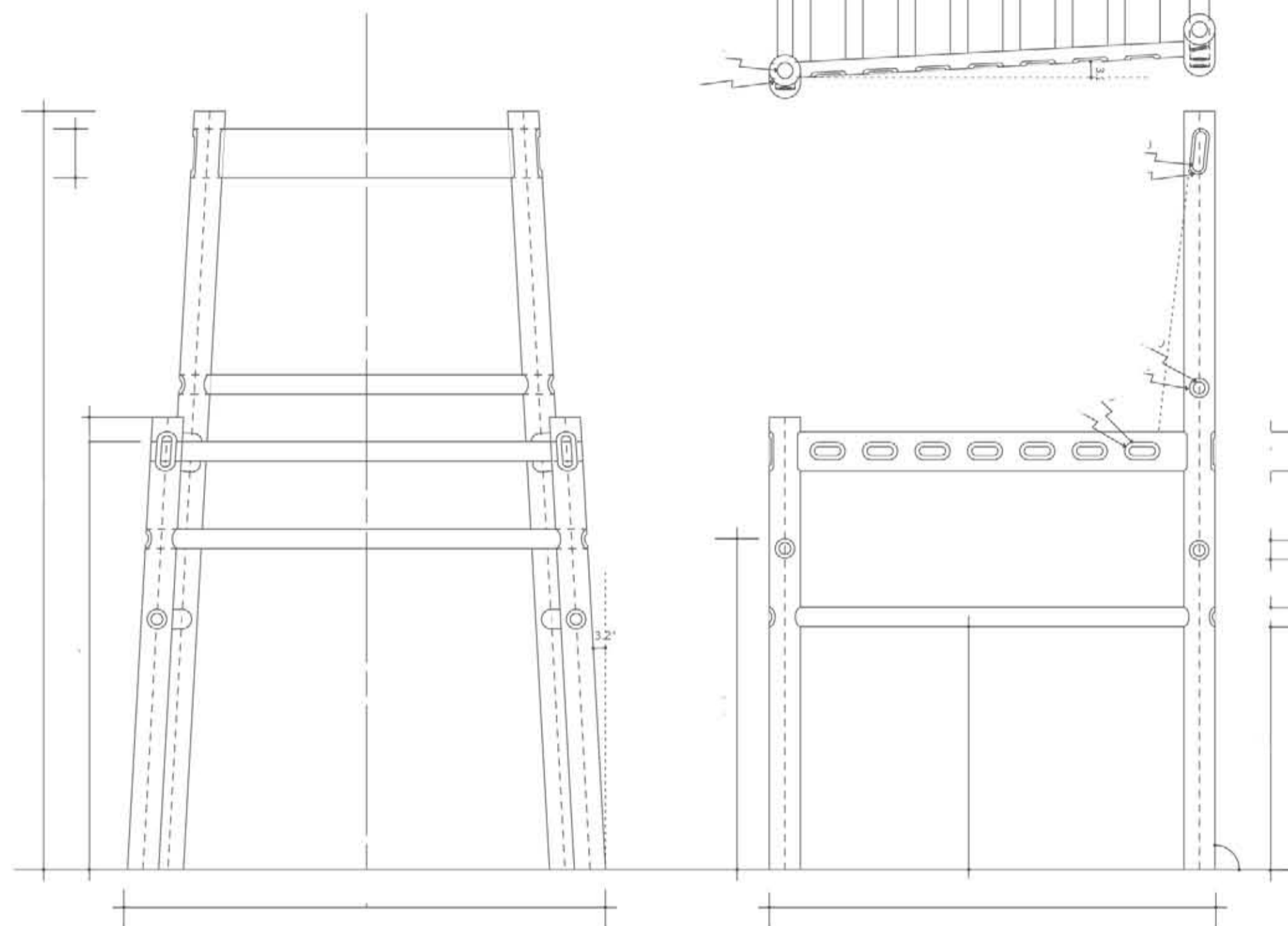
①杻目：

□丸太を大根の桂剥きのように丸く削ったもの。年輪が不規則で複雑な形になります。この製法を用いる事で一枚からひとつの部材を構成できる為、突き板を無駄なく使用する事ができます。



②柾目：

□丸太の中心から半径の線に沿って削ったもの。年輪が平行に、そして均等に並びます。ロータリーカットに比べ採れるワイドは短いですが、2層重ねて巻く事により、幹の細い木材でも構成できます。また、種類の違う木材を2層にすることでより木口が強調され、本案の意図をより明確に伝えます。



scale : S=1:5

正面図・平面図・側面図

## 特徴

パイプ状の特性から、無垢材で作る同規格の半分以下の材料で成立し、1.65kg という軽量化と中空部に力の分散する構造が成立します。また、ジョイントはすべて貫通させ、木口を強調します。

この素材を応用すると、例えばより高齢化の進む中、誰もが負荷なく使う事のできる「一人でも模様替えのできるソファセット」等の提案が考えられ、暮らしに細やかな喜びを与えます。また、廃材も殆ど出ない為、森林の保全にも繋がります。

本案がもたらす変化は、おそらく 100 年先のこの国にとって、あまりにも些細なものですが、そんな小さな気づきが家具への意識を喚起するきっかけになれば幸いです。